

from **NOW ON** KANSAI

ひとを見つける、ひととつながる  
関西広域連合のビジネス情報紙



**継承したいのは藍染の本質的な魅力  
起業6年目の若手社長が挑む伝統産業の新しい可能性**

～株式会社Watanabe's



▲藍の葉を発酵させて作る染(上)を仕込んで染色液(下)が作られる。

## 継承したいのは藍染の本質的な魅力 起業6年目の若手社長が挑む伝統産業の新しい可能性

### 藍の栽培から染色まで 一貫して自分たちで行う

我が国では、各地でさまざまな伝統産業が伝え継がれている。しかし、時代の変化による需要の低迷、後継者不足などから、継承が難しくなっているものが少なくない。そうした中、古くから藍の栽培が盛んで、藍染の染料である染<sup>すくも</sup>の産地として知られる徳島県上板町で、株式会社Watanabe'sは誕生した。



▲染作りも染色も一貫して行う

### ●プロフィール

株式会社Watanabe's

徳島県上板町の地域おこし協力隊に参加した渡邊健太代表が2018年に起業。藍の栽培から染料となる染<sup>すくも</sup>作り、さらに、藍染製品の開発、製造、販売までをトータルに行う。

徳島県板野郡上板町瀬部314-10

<https://watanabezu.com/>

代表の渡邊健太氏は、東京でのサラリーマン時代に藍工房を見学して藍染めに魅了されたそうだ。修行先を探して上板町の地域おこし協力隊に応募し、藍染の本場でさまざまなことを学んできた。

起業当時、藍染製品が注目される一方で、染<sup>すくも</sup>にはスポットライトが当たらず、新規参入してくる若者がいない状況が続いていた。また、藍染は、藍を栽培する農家、藍から染料の染<sup>すくも</sup>を作る藍師<sup>あいし</sup>、染色を行う染師の分業で行うのが当たり前とする考えが根強く残っていた。そこで渡邊氏は、藍染を手がけるなら、ゼロから携わりたいと、そのすべてを一貫して行うことを目指した。実際にやってみると、多くの手間と費用がかかり、夏場は染<sup>すくも</sup>作りにかかりきりになって染色をストップしなければならず、売上げがマイナスになることもあるそうだ。そうした苦労は多いものの、「自分たちが作る製品について原材料か



▲染産地の上板町にある同社工房

ら説明できる透明性があり、『今年は天候などの影響を受け、こういう色になりました』と製品ができ上がるまでの肉厚なストーリーを語れるのが強みです。」と渡邊氏は語る。トータルに関わることで、職人の経験や勘に頼ってきた<sup>すくも</sup>薬作りや染色に科学的にアプローチして、さまざまなデータも蓄積できる。自然条件に左右されやすい<sup>すくも</sup>薬作りに対して、科学的なデータを基にした対応が可能になり、<sup>すくも</sup>薬作りの門戸を広げることもつながる。

## <sup>すくも</sup>薬を使って染料を仕込む 前代未聞の体験キット

藍染は、かつて日本の暮らしのさまざまな場面で愛用されていた。しかし、一品ずつ手染めで作ると必然的に価格が高くなり、遠のいてしまっている。同社では、藍染が広く愛され、一般的な暮らしの中に定着させるためには、天然の藍染の本質的な魅力を伝える必要があると考え、とくしま経済飛躍ファンド交付事業を活用し、「<sup>すくも</sup>薬藍建てキット」を開発した。

化学染料で染める使い切りのキットは以前からあったが、このキットは<sup>すくも</sup>薬を使って発酵菌を育てる伝統的な藍建てを体験できる画期的なものだ。染色液を仕込んでからおよそ2週間で染められるようになり、うまく発酵菌を管理すれば、その後も繰り返し染色できる。藍染愛好家はもちろん、教育現場での活用も期待でき、藍染に対する理解と愛着を深めることにつながる。<sup>すくも</sup>薬を使った染料の仕込みから染色までを体験できる反面、ノウハウを明かすことになるためタブーを犯している



▲藍染を広めたいと語る渡邊氏

言われることもあるそうだが、「いったんこの部分を突破しないと、本質的な魅力を広く伝えることは難しいと考えました」と渡邊氏は言う。

2024年秋の発売を前に、小学校の夏休みの自由研究に活用したところ、発酵菌を育てて染色ができ、「いきものを使うなんて知らなかった」という、体験したからこそその声も聞かれたそう。発売開始を間近に控え、世界各国の藍染愛好家はもちろん、教育機関や藍染製品を販売するセレクトショップなどからも多くの問い合わせが寄せられている。自分で染色液を仕込むためには、発酵に必要な菌や天候など、さまざまなものと向き合うことが求められ、藍染についての理解を深めることにつながる。さらに、自分で仕込んだ染色液で染めた藍染を、愛着を持って使うことで、藍染が日常に近づき、より愛されることになればと期待がふくらむ。

## 異業種とタッグを組み 藍染の可能性を広げる

同社では、異業種とタッグを組んだ、さまざまな製品開発にも挑戦している。「阿波しじら織」の復活もそのひとつだ。経済産業省のホームページを見ていた渡邊氏が、阿波しじら織は、<sup>すくも</sup>薬で藍建てした染色液で染めた糸を使った伝統的工芸品と知るものの、“現存していない”という記載を目にして驚いたことがきっかけとなった。それなら、自分たちの強みである<sup>すくも</sup>薬藍建ての染色液で染めて、伝統的な阿波しじら織を復活させようと、補助金を活用し、織物業者と協力して生地を開発した。



▲伝統的な手法で染められた糸



▲絞りの手法で微妙な色みを出す



▲海外からの受注というタオル

しじら織りは軽く、通気性、速乾性に優れた伝統的な夏向け素材。「地元こんないい素材があるなら、ぜひ使ってもらいたい」と営業を展開したところ、シャツとして商品化が実現した。さらに、もとはゆかたの生地として多く使われていたことから、反物としての販売を開始した。地元のふるさと納税の返礼品として要望もあるといい、復活を遂げた阿波しじら織はあらたな需要を生み出しつつある。渡邊氏の取組が認められたのか、経済産業省のホームページの阿波しじら織の説明から、「現存していない」という記載はなくなっているようだ。

さらに同社では、他社とのタグを活かして、海外向け新製品「阿波藍緞通(絨毯)」作りにも取り組んでいる。海外には、製品の本質的な魅力に対して、その背景までを理解し、いわば作品として注目する人が多く、藍染の魅力を支えるのに適したマーケットと言える。同社では、新たなマーケットを開拓すべく、製品として魅力があり、天然の藍染の価格を納得してもらえるものは何かと考え、緞通の取組をスタートさせた。



▲渡邊氏が信頼を寄せるスタッフ

赤穂緞通の手織り技術や、大阪の堺段通の機械織りの技術も取り入れ、3者のコラボによる絨毯作りが始動した。「藍染製品は雑貨やアパレル製品の枠を超えられない現状がありました。ある程度高価でも納得してもらえるような製品造りに挑戦していきたい。」と渡邊氏。2025年初めからの販売開始を予定しており、現在は単色のシンプルなデザインが中心だが、いずれは手織りのような複雑なデザイン・柄のものも作っていくそうだ。

## ノウハウを活かして 藍染の裾野を広げる

渡邊氏によると、若い人を中心に「藍染をやりたい」という人は多いものの、産業としては骨太とは言えず、人材育成に力をかけられない現状があるそうだ。そんな中でも、同社では海外からも含めてインターンシップの希望者を可能な範囲で(年間4~5人)受け入れており、知識や技術を身につけた人が独立して藍の栽培を始めたり、藍染の工房を起業されるケースもある。こうした人との間では、<sup>すくも</sup>薬を提供するなど協力関係、情報交換が継続され、一人では難しい藍染に取り組める環境が整ってきた。

徳島に移住して13年になり、気候など藍の栽培や<sup>すくも</sup>薬作り、染料の仕込みに関するデータも蓄積され、科学的な根拠に基づいたノウハウの提供も可能になってきた。従業員の技術も向上し、今では困った時にはまず相談する頼もしい人材に育っている。

今後は地域の事業者同士の連携も深めたいそうで、「まだまだ横のつながりは薄いのですが、みんなで力を合わせてスクラムを組めば、もっともっと上にいけるはずです」と、渡邊氏は藍染の未来に期待をこめる。

関西広域連合主催「令和6年度 産業人材セミナー」アーカイブ配信中!

- ・初めての外国人雇用対策セミナー
- ・新制度「育成就労制度」について

<https://x.gd/IsFwj> (配信期間)令和7年3月31日まで



関西広域連合 広域産業振興局NEWS

メルマガ会員登録中!

ぜひ、ご登録ください(登録無料)

[kansaisangyotouroku@qt15.asp.cuenote.jp](mailto:kansaisangyotouroku@qt15.asp.cuenote.jp)



広域産業振興局では関西の成長の方向性を示した

「関西広域産業ビジョン」を策定しています!

「アクションプラン」「関西ポテンシャルマップ」「構成府県市リーディングケース」もぜひご活用ください。



関西広域連合 広域産業振興局 公式Instagram

イベント情報発信中です。

フォロー・いいねをお願いします!

@kouiki\_sangyo



〈次号は12月頃発行予定です〉

発行元/関西広域連合 広域産業振興局  
〒559-8555 大阪市住之江区南港北 1-14-16

大阪府商工労働部 商工労働総務課内  
TEL06-6614-0950 FAX06-6210-9481  
E-mail [sangyo@kouiki-kansai.jp](mailto:sangyo@kouiki-kansai.jp)

URL <http://www.kouiki-kansai.jp/koikirengo/jisijimu/sanshin/index.html>

さあ、関西の時代へ



関西広域連合  
UNION OF KANSAI GOVERNMENTS